

2016年度 明治学院大学 FD活動について

1. FD・教員評価検討委員会開催

開 催	議 題
第1回 5月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度の授業評価日程と内容の件 ・FD義務化3/4について ・授業評価報告書に関する件 ・今年度のFD推進活動について ・2016年度FD委員会予定の件
第2回 10月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度秋学期授業評価実施の件
第3回 3月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度授業評価の件 ・FD活動参加率の件

2. 「学生による授業評価」の実施

学期	実施日	実施状況				
春学期	6月27日(月)	対象授業	学部	2,095	大学院	101
	～7月9日(土)	実施	学部	1,860 (88.8%)	大学院	75(74.3%)
秋学期	12月1日(木)	対象授業	学部	2,037	大学院	99
	～16日(金)	実施	学部	1,770 (86.8%)	大学院	68(68.6%)

3. FD関連学外研修会等への参加

①	<p>日本私立大学連盟主催「FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）」</p> <p>テーマ： 大学職員の職能開発とFD</p> <p>日程： 8月2・3日 or 8月4・5日</p> <p>参加者： 和田ちはる(文学部)、大澤篤(経済学部)、榊原美樹(社会学部)、富田晃正(法学部)、西田真之(法学部)、川端一光(心理学部)</p>
②	<p>大学コンソーシアム京都主催「第22回 FDフォーラム」</p> <p>テーマ： 大学の教育力を発信する</p> <p>日程： 3月4・5日</p> <p>参加者： 今尾真(法学部)、大野武(法学部)、黒田美亜紀(法学部)、三角明子(教養教育センター)</p>
③	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催「第23回 大学教育研究フォーラム」</p> <p>日程： 3月19・20日</p> <p>参加者： 本多まりえ(文学部)、竹尾茂樹(国際学部)</p>

4. 学部・学科のFD活動

文学部

英文学科

英語関連科目ワークショップ（非常勤教員対象 FD）

英文学科では年度末に英語関連科目担当の非常勤講師を対象に教授法向上のためのFDを実施している。2016年度は英語母語教員と日本人教員合計約30人がこの半日ワークショップに参加した。ワークショップでは、各担当分野（writing, reading, speaking, listening, academic skills）ごとに分科会を開き、モデルクラスのプレゼンテーション、教授法や教科書使用に関するディスカッションを行い、科目担当者同士の情報共有の場とした。今年度は特にwriting向上のための活発な議論が行われた。次年度に向けて図書館の活用、オンラインwritingサポートシステム活用について非常勤教員を引き続きサポートしていくことが確認された。また、このFDでは、担当専任教員が最新の学科カリキュラムについて資料を配布し、詳細を説明することで、学科の教育方針について理解を深め、適切な授業実施を促すことも目的としている。学科の英語関連科目のさらなる質的向上を目指し、今後も継続して開催していく。

フランス文学科

フランス文学科では、フランス語を初めて学ぶ本学科の学生のニーズやカリキュラム体系に過不足なく適合するようにと、独自のフランス語教科書『Accès—くわしく学ぶフランス語の基礎』を作成し、2015年度4月よりフランス文学科1年生の文法の授業において使用を開始、本年度も引き続き使用している。昨年度同様、学生の動機づけにおいても、フランス語の習得度においても、この教科書の確かな効果を感じることができた。なお、この教科書は、出版以来、他のいくつかの大学において採用されている。本学のみならず日本におけるフランス語教育に大きく貢献しているということであり、非常に喜ばしく思う。必要に応じて随時修正を加えながら、よりふさわしい教材に育てていくつもりである。

また本年度は、よりよいフランス語教育を行うために教員間でそれぞれの見解を述べ合うとしての「フランス語教育研究会」を、3回にわたって開催した。教授法一般に関する議論から、共通教科書の選択といった具体的な議題に至るまで、さまざまな話題について実りのある意見交換を行うことができた。

さらに2016年度には、学科独自の中期留学制度（約半年間）の新たな行き先としてグルノーブル大学附属語学学校を追加、学生の派遣を開始した。そして1年間の長期留学に関しても、国際センターの協力のもと、ニース大学との協定を締結。2016年11月に募集を開始し、1名の学生が来年秋からの留学候補生として内定している。現地での学びはフランス語およびフランス文化の修得のために何より有効であるため、これからも留学制度の一層の充実を図る所存である。

芸術学科

文学部芸術学科は人間・文化・社会との関係の中で芸術について学ぶ場を提供するパイオニアとして、1990年の開設時の「音楽学系列」「美術史学系列」「映像芸術学系列」に2006年に「芸術メディア系列」、2014年には「総合芸術学系列」を加え、時代の変化と共に自己変革をしてきた。さらにここ数年の芸術・文化をめぐる環境の変容、学生の要望の傾向、競合校における類似の学科が設立する動き等々を鑑み、芸術学科の教員間ではこれまでの実績を基盤にしつつも、「2

1世紀の芸術」に挑戦的に対応していくため、2014年度～2016年度にかけて授業内容や指導方法、さらにそれを支える体制やカリキュラムなどについて、学生たちへのヒアリングも交え、研究・検討が自主的かつ継続的に行ってきた。2016年度はこのような議論を受け、2017年度の体制変更を具体化すると共に、全系列のカリキュラムの見直しを行い、芸術学科の特色的な教育方法の議論・共有を行った。

◆系列間学生数不均衡是正と「演劇身体表現系列」の設立

- ・かねてより課題であった系列間学生数の不均衡を是正し、「芸術メディア系列」の中で身体表現を学ぶことを希望する学生の要望により専門的に応えるため、2017年度から「芸術メディア系列」の中に内包されていた「演劇身体表現」を新系列として独立させることになった。
- ・これを機に、従来「系列」とされてきた呼称を入学生にもわかりやすい「コース」と改訂し、「音楽学コース」「美術史学コース」「映像芸術学コース」「芸術メディア論コース」「演劇身体表現コース」「総合芸術学コース」の6コース体制を整えた。

◆全コースのカリキュラム見直し

- ・上記の体制変更に伴って全コースのカリキュラムを見直し、それぞれの系列内で独立的に行われていた教育状況を共有することで、芸術学科全体としてバランスのよい単位数、授業内容などを再検討。2017年度の新カリキュラムに反映させた。
- ・また、各専門コースと総合芸術学コースの位置づけの明確化し、1年生から4年生までの各学生の希望変化にそったコース変更のシステムなどを検討・整備を行った。

◆教育状況の共有化・大学全体のFD活動への参加

- ・これまで系列内、あるいは教員個人として行ってきた授業方法を共有化。
たとえば、ワークショップ形式で行われている授業について大学のFDサイトに執筆をしたり、新任教員向けFD推進ワークショップ参加した教員に科会内でのFD検討の際に報告をしてもらい議論。
- ・全校のアクティブラーニングのヒアリングの機会などに、実際にワークショップ型授業を行った経験から課題などを報告。
- ・FD講演会に参加可能な教員が参加し、その後科会等で共有。
- ・系列間の授業連携や、共通テーマを設定しての年間イベントなどの可能性や、社会に出て活躍をしている芸術学科OBOGと在校生を結ぶキャリア支援的な場創りなどについては、次なる課題として引き続き検討中。

教職課程

教職課程では、講演会の開催、ワークショップ等の開催、学校等との連携、冊子の作成、研修会の開催などを通じ、日々の教職課程運営及び授業の改善に取り組んでいる。

① 講演会の開催

α) 現職教員を招き、教育現場の実際、教育実習への心構えを話していただいた。(4年生向け：教育実習)

<p>2016年4月22日(金), 28日(木), 5月3日(火), 10日(火)</p> <p>β) 教員採用試験合格者を招き, 学生に助言をしていただいた。(3年生向け: 教員採用試験対策セミナー)</p> <p>2016年11月16日(水), 12月8日(木)</p> <p>γ) 学外の専門家を招き, 教育に関する最新情報を話していただいた。(学生及び一般向け: 文学部講演会, 4年生及び卒業生教員向け: 卒業生教員懇談会)</p> <p>2016年11月17日(木) 講演会「新しい教師像の可能性」</p> <p>2017年2月25日(土) 講演会「次期学習指導要領と教員養成の課題—養成と研修について—」</p> <p>② ワークショップ等の開催</p> <p>α) 現職教員を招き, 学生の模擬授業を検討していただいた。(4年生向け: 教職実践演習)</p> <p>2016年11月12日(土) 「社会科系教科の指導法」</p> <p>2016年11月19日(土) 「保護者との関わり方について」</p> <p>β) 卒業生教員を招き, 卒業生同士の交流を促進したり, 4月から教員になる学生に助言をしていただく。(4年生向け: 卒業生教員懇談会) 2017年2月25日(土)</p> <p>γ) 非常勤講師を招き, 授業等に関する意見交換を行い, 教職課程運営及び授業の改善に活かす。(非常勤講師向け: 非常勤講師会) 2017年3月8日(水)</p> <p>③ 学校等との連携</p> <p>α) 教育実習校を訪問し, 教育実習に関する意見交換を行い, 教職課程運営及び授業の改善に活かした。</p> <p>β) 近隣の学校と連携し, 学校現場を生で体感させる機会などを設けた(4年生向け: 教職実践演習)</p> <p>2016年11月10日(木) 港区立高松中学校</p> <p>2016年11月15日(火) 品川区立日野学園</p> <p>γ) 横浜市教育委員会主催の連絡協議会に参加し, 教育実習に関する意見交換を行い, 教職課程運営及び授業の改善に活かした。2016年12月20日(火)</p> <p>④ 冊子の作成</p> <p>α) 教員採用試験合格者に原稿を依頼し, 『教員採用試験合格者の体験報告集』を作成した。(3年生向け: 教員採用試験対策セミナー)</p> <p>⑤ 研修会の開催</p> <p>α) 文科省, 全私教協, 関私教協, 東教協, 横浜市教育委員会の教員養成に関する情報を教職課程で共有し, 教職課程運営及び授業の改善に活かした。(教職課程教員向け: 研修会) 2017年2月24日(金)</p> <p>β) 文科省, 全私教協, 関私教協, 東教協, 横浜市教育委員会の教員養成に関する情報を非常勤講師に提供し, 教職課程運営及び授業の改善に活かす。(非常勤講師向け: 非常勤講師会) 2017年3月8日(水)</p>
<p>経済学部</p>
<p>2016年7月6日 FD研究会</p> <p>教材: 「自己点検・評価の在り方」(立命館大学教育開発推進機構教授 教育・学修支援センター副センター長 安岡高志氏)</p>

経済学科

2016年6月1日 実験経済学に関する講演会 (大阪大学社会経済研究所専任講師)

社会学部

社会学科

社会学科では、1年生から4年生まで切れ目なくゼミなどの少人数科目を履修し、それを軸に学生が独自の学習カリキュラムをたて、実践的な学習効果を高められるよう努めてきた。社会学部の入学前教育プログラムなどとあわせて、最初の2年で「社会学をつかう」力を培い、後半の2年でそれを独自の研究成果につなげることを基本としている。

2013年度から準備を開始した前半2年間の少人数クラスのカリキュラムが、2014年度に完成した。また、2016年度以降、数年をかけて社会調査士関連科目の在り方を見直す作業に着手した。今年度の特筆すべき活動として下記のようなものがある。

1. 科目の継承と充実

(1) 「アカデミックリテラシー」(1年次春学期)の継承と充実

2013年度に、論理的な思考、読解、記述、議論のための基礎的な力をつけることに重点を置く「アカデミックリテラシー」を開設した。2016年度も、前年度の反省を踏まえ各回の授業内容を見直した上で、1年生が大学での学習に適応できるよう学び方を学ぶ授業へと改善した。

(2) 「社会学基礎演習」(1年次秋学期)の継承と充実

「社会学をつかう」ことを重点とする「社会学基礎演習」(要求科目)についても授業内容や各回で用いる教材を見直した。講義・テキスト読解とグループワーク、フィールドワークを組み合わせ、教育効果を高めた。

(3) 「表現法演習」「質的データ分析」(2年次秋学期)の継承と充実

2014年度から2年次秋学期の少人数クラスとして「表現法演習」を開設し、従来から存在する「質的データ分析」とあわせて選択必修とした。表現法演習では、受講した学生が制作した作品をDVDや冊子等にまとめ次年度への継承している。

(4) 「社会調査の基礎」(1年次秋学期)の要求科目化

2016年度から「社会調査の基礎」を要求科目とした。2000年頃まで必修科目だったが、その後に変更されていた。今回は、2016年度以降、適宜すすめる社会調査関連科目に関するカリキュラム改革の嚆矢として、本科目の履修を要求科目化したが、2016年度の履修者数は在籍者数241人中191名だった。

2. 学科教員間のFD・学習会

(1) 学科研修会の開催

7月と3月に学科研修会を実施した。「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」「表現法演習」の経験を学科で共有することを主目的に、4年間の学習効果をいかに高め、また、卒業時にそれをどのように検証するか等について議論した。社会調査士関連科目の在り方を見直すカリキュラム改革についても継続して意見交換を行っている。

(2) 担当者会議の開催

「アカデミックリテラシー」社会学基礎演習」「表現法演習」の学習効果をより高めるため、担当者会議を実施、今後の方向性について確認した。

(3) 教学改革プロジェクト「内なる国際化」への参加

当該プロジェクトには、主に主任が中心で参加をしてきた。本プロジェクトの目的や概要については、学科会等でも報告し、概ね他教員とも共有されている。映画上映会、学習支援ボランティア活動、シンポジウム、研究会等の授業や研究のプロジェクトを教養教育センターと社会学部が共同して実施し、多くの参加者を得た。2017年度開講科目についても準備し、また、2017年度には「多文化共生ファシリテーター」の認証ができるよう、2018年度以降の実施体制についても準備を始めた。

社会福祉学科

社会福祉学科は、ソーシャルワークコースと福祉開発コースの2コース制を導入しており、今年度で8年目となった。ソーシャルワークコースは、主に社会福祉士、精神保健福祉士国家資格を取得し、社会福祉実践現場において専門職として活躍できる人材の育成を、福祉開発コースは、現在の社会福祉制度に縛られることなく、新たなニーズを見出しそれに見合った支援を一般社会の中で開発していける人材育成を目指している。さらに、開発コースでは、特別支援教育の教員養成も行っている。

以上の学科共通の教育及び各コースの特徴を踏まえてFDを行った。以下では、その要点を列挙する。

1. 初年次教育の充実に向けた取り組み

(1) 2016年度からの「アカデミックリテラシー」実施状況とその評価

今年度より、入学直後の春学期から大学での学びに相応しい読解力、表現力を付ける必要性があることを認識し、春学期にアカデミックリテラシーを新規科目として開講した。昨年度の準備期間からのFD活動に引き続き、今年度は、担当教員（専任教員2名及び非常勤教員）を中心に、授業開始前の共通プログラムの確認及び実施後の評価と見直しを行った。特に、レポートの添削等については、その方法（2回にわたり校正を行い、受講学生のレポートの書き方の学びを徹底する）についての検討を行った。さらに、今年度の修正点を確認し、次年度からのプログラムの準備を進めた。

(2) 次年度に向けての「基礎演習」の内容の改定

2016年度の春学期アカデミックリテラシー演習の成果を受けて、2017年度から基礎演習（秋学期）の内容の刷新を予定している。そのため、次年度担当予定の専任教員を中心に、教育目標、内容についての具体的な刷新を図るための検討を行った。基礎演習では、社会福祉学の実践に焦点を当て、学生が自己と異なる「他者」の生活実態について聴き取りを行い、その記録化をすることを中心に演習を行うこととなっている。加えて、学科教員及び担当非常勤教員を中心に、このような実践に基づく演習を先駆的に実施している他大学の教員を招いて研修を実施する計画を立てている（2016年度中に実施予定）。

2. 教学改革プロジェクト「内なる国際化」への参加

昨年度に引き続き、学科主任が中心となり「内なる国際化」プロジェクトに参加した。

2017年度からの本格的な学部学生への「多文化共生ファシリテーター」養成プログラム実施

のため、特に、外国につながる子どもたちの教育支援実践の新設科目である「ボランティア実践指導」について、その演習内容を中心に社会学科、教養教育センター担当者とともに、その取り組み方法（演習内容）について検討を進めた。

3. 特別支援教員養成の強化と教員採用

特別支援教員養成課程について、新たに専任教員を迎え、特別支援学校教員を目指す学生への教育支援の充実を諮った。特に、2017年度からは、これまで非常勤教員として指導を依頼していた江崎俊夫氏を特命教授として迎え、よりきめ細やかな養成教育を実施していく予定である。今後、さらに社会福祉専門科目との融合を目指した教育支援の在り方を検討していくこととなっている。

4. 学科教員間のFD、学習会

(1) 学科研修会の開催

例年通り、7月に学科研修会を開催し、上記の初年次教育の在り方、教員養成プログラムについての情報共有等を学科教員全体で検討する学習会の場を設けた。

(2) 新たな基礎演習のプログラム開発等のため、先駆的な実践演習を実施している他大学教員を迎えた教員学習会を開催する予定である。

法学部

1. 授業公開：春学期と秋学期に教員間で授業公開を行っている。2016年度は、春学期は、5月9日（月）から同月21日（土）の2週間、秋学期は、12月12日（月）から同月24日（土）までの2週間、実施した。事前にアンケートで、実施科目、事前連絡の有無等を確認して、授業公開一覧表を作成して、掲示およびメール配布をしている。

2. 定期試験の問題と解説の公表：2013年度から、e-Learning 上または学部オリジナルHP上で、定期試験の問題と解説または講評を公表している。2016年度の春学期定期試験については、8月23日（火）から9月5日（月）まで公開した。秋学期定期試験については、3月10日（金）から3月23日（木）まで公開する予定である。解説・講評の公表が主目的であり、問題の公開は任意である。掲載場所は、e-Learning 上の「講義内容」または「教材」のどちらかであり、e-Learning を使用しない教員のためにHP上の掲載場所も設けている。

3. 法律学科のFD会議：法律学科では、例年秋学期開始時にFD会議を実施している。2016年度は、9月28日に、1年次配当科目FD会議として、「民事法入門」、「刑事法入門」、「基礎演習1」について、消費情報環境法学科の教員と合同でFD会議を実施した。民事法入門については、統一テストの試験結果や講評が行われた。基礎演習1については、学科設立50周年を記念して出版された統一教科書『フレッシューズ基礎演習』（中央経済社）の使用状況や活用事例が紹介され、担当教員で意見交換を行った。

4. 消費情報環境法学科の情報処理関係科目のFD会議：消費情報環境法学科では、2016年

度は、12月14日に情報処理関係科目（情報処理1～4、法情報処理演習1・2）のFD会議を実施した。①情報処理1・2の専任担当クラスの人数の片寄りの問題、②必修科目の法情報処理演習2の選択科目化について話し合った。①については、最終的に、コンピュータを使った授業における指導は、一般に、40名程度が限度であることから、非常勤・専任を問わず1クラス40名を原則上限とし、40名以上の場合は、各担当者に確認することとした。②については、昨年度に引き続き、教育効果を図る点から履修希望者のみにしたらどうかとの問題提起がなされ、意見交換を行った。授業の仕方も含めて今後さらなる検討が必要であり、次年度への継続審議となった。なお、共通教材としての学科CDの作成については、7月6日の学科会議で、現在ではHPと重複している内容が多いため、学科CDの存在意義はほとんどないとの報告が5月に立ち上げた学科CD検討ワーキングチームからなされ、学科CD自体の作成は廃止することとなった。今後、共通教材的なものをどうするか等は、今後の課題となった。

5. 政治学科では頻繁に学科会議および研究会を開催し、学科内で十分な意思疎通を図りつつ、教育・研究に取り組んだ。

年度の始め（4月）の学科会議（全員参加）では、一年ゼミ（政治学基礎演習）の割り当てなどの状況を確認して、基礎ゼミにおける教育方法、採点方法を議論した。2016年度は、学生数（155名）が増えたこと、さらに再履修（2年生など）もあり、1ゼミあたりの学生数が若干増えることが相談されました。ゼミ所属の学生の名簿を教員に配布した。多いゼミでは、17人になっているところもあり、ゼミの進行などについて相談した。また、ゼミ単位対抗の秋の討論会（フレキャンの続編）は、12月1日（木曜日）の午後に行うことが相談され、この日に一年生のアカデミックリテラシーの授業（教養センター担当）に対して、年間授業日程の編成において協力するように依頼することになった。また、全部10ゼミの採点方法を統一するかどうかについても、相談しました。最後に、教科書として『初めての政治学』『政治学の扉』が配布されたことで、ゼミで適宜、使用するよう申し合わせた。ただし、使用法は、各教員の自主的判断に任せるとした。

また、7月のFD会議（全員参加）で一年基礎ゼミ（政治学基礎演習）における教科書（『初めての政治学』『政治学の扉』）の使用状況、教育効果の検討と改善方を検討した。合わせて今後の共同研究の可能性、研究成果を教科書の形で学生にフィードバックすることも議論した。

6. 大学コンソーシアム京都主催「FDフォーラム」への参加予定。次年度は、法律・消費情報環境法・政治の3学科の主任が任期満了で交代するので、他大学のFD活動に関する情報収集・情報交換を兼ねて、次期主任予定者（法律と消費）と法学部長とで、2017年3月4～5日に、京都コンサートホールおよび京都府立大学にて開催される大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に参加する予定である。初日には、「大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～」のテーマにかかるシンポジウムに参加し、2日目は、第5分科会（テーマ：「学部ゼミナールでいかに学習成果を高めるか」）に参加し、最近のFD活動の状況確認と情報収集をし、法学部の教育改革・改善に役立てたいと考えている。

国際学部

日程	ターゲット	テーマ
2016/4/13	国際学部教員	教授会の運営について・ライティング支援・模擬授業など
2016/5/11	国際学部教員	3ポリシーについて
2016/6/8	国際学部教員	ゼミの持ち方について・入学前教育・卒論報告会について
2016/7/6	国際学部教員	1年生科目「現代史」の授業について
2016/7/22	国際学部教員	国際キャリア学科のカリキュラム・大学院・UCとの連携
2016/9/14	英語非常勤教員	Using eLearning/Its Class effectively, Year End Portfolio, Review of Administration/Procedures, Collaboration Week Planning
2017/10/12	国際学部教員	国際交流について、横浜国際学会設立について
2017/11/9	国際学部教員	3ポリシーの改定検討
2017/12/14	国際学部教員	卒論提出と報告会について
2017/1/12	国際学部教員	卒論報告会・入学前教育について

心理学部

1. 2016年度第1回心理学部FD研修会

日時：2016年6月29日（水）16:00～18:00 場所：心理学部会議室

講師：金沢吉展、金城光、清水良三、野末武義、緒方明子、小林潤一郎、辻宏子、藤崎真知代、水戸博道

テーマ：「授業や試験の工夫2」

内容：以前の「授業や試験の工夫1」に引き続き、心理学科4名、教育発達学科5名の教員により、授業や試験での工夫をそれぞれ約20分で発表を行った。いくつか内容を紹介する。①学生をグループに分け、課題をやらせグループごとに発表させ、どのグループの発表が良かったか投票させる。②学生の自己評価を高めるワークを行う。昔より良くなったところは何か、自分にとって使える能力は何か、など考えさせる。

③第7週目に中間テストを行うと効果大きい。④ほぼ毎回20分くらいで論理パズルを解かせる。⑤詳しい完全なレジュメを配布すると学生は安心して授業を聴かない傾向があるので、未完成的なレジュメを配布する。⑥学習目標を細かく設定し、達成感を得やすくし、動機づけを高める。

参加：24名（心理学部教員27名中：教員30名特別研究3名）

2. 2016年度第2回心理学部FD研修会

日時：2016年11月30日（水）18:00～19:30 場所：1351教室

講師：静岡大学大学院教育学研究科准教授 益川弘如先生

テーマ：「深い理解を実現する協調学習—学習科学の知見をいかして—」

内容：講師の専門である学習科学の知見を基にアクティブラーニングについて講演頂いた。内容としては、教えて訓練しそれから使わせるという旧来の考え方から、近年はスキルと知識は一体でありスキルが発現しやすい学習活動を用意し引き出すことが重要と考えられるようになってきている、アクティブラーニングの学習法のひとつに「知識構成型ジグソー法」があり、グループのメンバーを2段階に組み替える方法で、効果が高いこと、などが紹介された。

参加：25名(心理学部教員27名中：教員30名特別研究3名)

教養教育センター

実施日		名称	対象
2016年	6月8日	FD検討・「明治学院共通科目」カリキュラム改革のための懇談会	専任教員
	7月28日	アカデミックリテラシー担当者研修会	
2017年	1月26日	アカデミックリテラシー担当者研修会	専任教員 非常勤講師
	1月28日	英語(EC1)担当者研修会	
	2月7日	中国語研修会	
	2月8日	相互学修支援プロジェクト報告会(FD研修会)	専任教員
	2月27日	外国語教育に関する研修会 講師 山崎直樹氏	専任教員 非常勤講師
	2月27日	スペイン語研修会 講師 Concha MORENO GARCIA 氏	
	2月27日	ドイツ語研修会	
	2月27日	ロシア語研修会	
	2月27日	英語(EC2)担当者研修会	
	2月27日	韓国語研修会	
	3月3日	健康スポーツ科学FD研修会	
3月4日	哲学・論理学部門研修会		
3月7日	キリスト教学研修会		

以上